

ふるさと 生坂会

生坂村をふるさととする皆さんの会報

発行：ふるさと生坂会 本部事務局
〒113-0021 東京都文京区本駒込1-25-5
Tel. 03-3941-2895

発行日：平成27年(2015年)7月
発行人：寺田 廣康
編集者：久保田 耕平



信濃の国

一 信濃の国は十洲に
境連ぬる国にして
聳ゆる山はいや高く
流るる川はいや遠し
松本伊那佐久善光寺
四つの平は肥沃の地
海こそなければ物さわに
万ず足らわぬ事ぞなき

二 四方に聳ゆる山々は
御岳乗鞍駒ヶ岳
浅間は殊に活火山
いづれも国の鎮めなり
流れ淀まずゆく水は
北に犀川千曲川
南に木曾川天竜川
これまた国の固めなり

三 木曾の谷には真木茂り
諏訪の湖には魚多し
民のかせぎも豊かにて
五穀の実らぬ里やある
しかのみならず桑とりて
蚕飼いの業の打ちひらけ
細きよすがも軽からぬ
国の命を繋ぐなり

県歌：由来

作詞：浅井 洸
(信州大学教諭)

作曲：北村 季晴
(信州大学教諭)

学生が教師として県
下に赴任して連綿と
歌いつがれたことで
昭和43年に県歌に制
定されました

ふるさとを囲むふれあいの輪、ふるさと生坂会

会員の皆さまへ



会長 寺田 廣康
出身：上生坂林都
旧姓：平 東京都
在住

春とは名のみの
猛暑がつづき、季
節外れの豪雨や突
風に見舞われたり、
梅雨を待たずに開

花を迫られて戸惑う紫陽花の姿があつたりと
四季を忘れた異常気象のこの頃ですが、皆さ
まにおかれましてはお健やかにお過ごしこと
とご推察申し上げます。

平素はふるさと生坂会の活動に格別のご支
援とご協力を賜り誠にありがとうございます
厚く御礼申し上げます。

ふるさと生坂会も第七期は、会員相互の親
睦を深めて更なる活性化をすすめ、ふるさと
生坂村との絆を強めて「魅力ある村づくり」の
お手伝いができるような応援体制をつくって
いこうということで、活動を進めております
が、それには生坂村をふるさととする皆さま方
に一人でも多くご参加をいただいて交流の輪
を更に拡げ、お手伝いの拡充を図っていくこ
とが望まれます。

そこで、昨年は、この会の存在をより多く
の方に知っていただくためのPRパンフレッ
トなどを作って配布したり、生坂村の協力を
得て「広報いくさか」や「故郷直送便」などを会
報と同送したり、生坂中学校卒業生の皆さま
が開催される同級会の機会を拝借してお願い
をしたりと、新規会員の入会を促進する運動
に努めました。

その結果、おかげさまで昨年度は七名の方
にご入会いただきました、平成二十二年以降
では最も多い新入会員数となり大変喜んでお
るところであります。

しかし、一方では、情報の発信が生坂村出
身者のごく一部分に留まっておるのが現状で
ありまして、この会の存在すら知らなかった、

初めて聞きましたとおっしゃる方も多くおられます、こうした状況をふまえて情報発信方法を更に検討する必要があります、関係者や会員の皆さまはもとより、故郷生坂村の村民の皆さまにも是非お力添えをいただいで、村外で生活されておられるお身内の方の情報を頂戴して活用させていただきます、交流の輪を拡げていくことが出来ればと考えております。

どうか皆様の温かいご協力をお願い申し上げます。

去る六月六日に中央区銀座で関東支部の懇親会が開催されました、当日は梅雨入りの時期でもあり天候が気がかりでしたが、幸い好天に恵まれて、多数の皆さまに出席いただき、懐かしい故郷の話題で盛り上がり時間を忘れて談笑することができました。

当日は、はじめて参加された方も数名おられまして、新しい方大歓迎でお迎えして紹介させていただきました、懇談の輪に加わっていただきました。

年代は十数年離れていても、兄弟のいづれかが同級生であったり、父母が同世代だったとか、祖父母の繋がりでとか、故郷を囲んで記憶をひもときながらの会話は大変楽しいものでした。

世代を超えて故郷の話題を共有することができた、情報の交換ができるのがこの会の素

初めまして聞きましたとおっしゃる方も多くおられます、こうした状況をふまえて情報発信方法を更に検討する必要があります、関係者や会員の皆さまはもとより、故郷生坂村の村民の皆さまにも是非お力添えをいただいで、村外で生活されておられるお身内の方の情報を頂戴して活用させていただきます、交流の輪を拡げていくことが出来ればと考えております。



晴らしいところでもありますが、どうぞ皆さま大いにご活用いただいで交流の輪が更に広がって行きますことを願っております。

今後、牛歩ではありますが、一歩前進をモットーに活動を進めていく所存でありますので、何卒、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

**やまなみに抱かれ いつまでも
楽しく暮らせる未来を創り出す村**

生坂村長 藤澤泰彦



盛夏の候、ふるさと生坂会の皆様には益々御健勝のこととお慶び申し上げます。平素は郷土生坂村のためご厚

誼に賜り厚く御礼申し上げます。さて、本年二月八日に挙行されました村長選挙では、十六年ぶりの選挙戦となり、有効投票の約六十四%の多くの支持を頂戴し、三選を果たすことができました。

現在、引き続き「子育て支援事業」「福祉の村づくり事業」「産業振興事業」「地域活性化対策等事業」の四つの重点事業を柱として、「村民の皆さんとの協働による村づくり」の村政運営に邁進しているところでございます。

「子育て支援事業」では「健やかに産み育む子育て支援金」に加え、三歳児以上の第三子以降の保育料を無料にし、児童館では、「いくっこ 子育て支援」により、新生児から一八歳まで全ての子どもと家族を対象に、保健師や保育士による育児相談・支援を主にした総合的な子育て支援などにより、安心して健やかに産み育

てられ、次代を担う子ども達が個性豊かに育まれる環境づくりに努めています。

「福祉の村づくり事業」では、当村の医療費の伸びが抑えられ基金が増えましたので、今年度から国保税率を約一二%引き下げましたが、第六期の介護保険料は、基準額で月四七〇〇円となりました。今後も村民の皆さんが、健康保持や介護予防に努めていただきますとともに、保健師による健康指導や特定健診・特定保健指導を受診し、健康寿命を伸ばしていただき、健康な暮らしの継続と福祉の充実により高齢者の生活の安定に取り組んでいます。

「産業振興事業」では、農業基盤整備事業、農村生活環境整備事業、直売施設及び加工施設の建設による六次産業化等が総合的に行えます。「県営中山間地域総合整備事業」を今年度から着手し、ラフティング、パラグライダー等のアウトドアツアー、大城・京ヶ倉トレッキングツアーなどの体験型観光を振興し、やまなみ荘の誘客、農業、商工業の振興、六次産業化等により当村の経済の活性化を目指しています。

「地域活性化対策等事業」では、定住促進住宅二棟の建設と「いくさか大好き隊」による環境保全等の作業、情報発信、高齢者の見守り、農業支援等を「地区担当職員」と連携して実施し、全十区に「自主避難ルール」と「緊急避難地図」が出来、今年度は二区の公民館を改修し耐震性を確保して、さらに地域防災力の強化を進め、村道改良事業では、村道一級一号线等の生活道路の改築工事と、老朽化した橋梁等の道路施設の修繕などにより、人口維持対策及び安全安心な生活の確保と地区・村の活性化に努めています。

今年度は第五次総合計画の後期に入りますとともに、地方創生として生坂村の人材・文化・資源を活かし創意工夫をして、将来ビジョンの作成と地域全体の維持・活性化を図る生坂版総合戦略を策定し、生坂創生のための事業も実施していきます。

会員の皆様からの「ふるさと納税」は、ご意向に沿って村のために活用させていただきます感謝を申し上げます。また、秋には巨峰等の収穫や「赤とんぼフェスティバル」を盛大に開催しますし、村営やまなみ荘も美味しいお料理や様々な企画などのおもてなしで皆様方のお越しをお待ちしております。

結びに、「ふるさと生坂会」の益々ご発展と会員の皆様のご健勝、ご多幸をお祈りしまして挨拶いたします。



中学校時代の通学時の思い出



支部長 長 希明
吉沢 希明
出身：入山
在住：東京都

寒い冬の季節であった。道路工事の土方衆が通学路でもある犀川の国道の補修作業をしていた。現場近くで焚火をしていた。通学路なので、その焚火にあたりながら、待ち合わせなどもしていた。

その時である、一人の工事をしていた男が突然と焚火の所に現れて「ころ！お前たち！ちよつと待て!!

俺は方々回っているが、お前らみたいな子供は初めてだ！何でちゃんと挨拶が出来ないのか——？黙って人様の火に勝手に当たっている奴があるか？挨拶くらいチャンと出来ないのか？」

更に語気を強めて「君らは、これからの日本をしょって立つ人間だ、それでよいと思っているのか？挨拶くらい出来ないで、どうするんだ！」と挨拶教育、愛国教育を説いた。

この時は、肩で風を切っていた上級生も神秘的な面持ちで聞いていたのを、今でも鮮明に記憶に残っている。

親からは、このような土方衆を、よそ者とか、旅者とか呼んでいて、村の仲間とは区別し蔑視していたようだ。

なのに、この時の話を、今思い出すとなんと素晴らしい大人だったろうと、改めて敬意を表したいと思う次第だ。

こんな大人が果たして、どれくらいいるのだろうか？

確かに、子供は社会共通の宝だと言つて、おだてたり、褒めたりはするが、この男のように、言うべきことを、チャンと言う大人が少なくなつたと感じるのは、私だけだろうか？

遅ればせながら、この世代になり、この時の大人をモデルにしたいと願うこの頃です。

犀川の今昔



通夫 瀧澤
出身：小藤
旧姓：東京
在住：東

その1「鮭」

その光景を
実際に見た人
は間もなくい
なくなつてし
まうでしょう。犀川でのサケの遡上の様子です。私が五から六歳のころのこと、集落の端にある高台から眼下を見ると、今はダム湖(生坂ダム)となつてしまいましたが、犀川の澄んだ流れがあり、川の中ほどには大きな岩があつて渦を巻く瀬をつくっていました。秋になると岩の縁などに銀鱗を見せながら遡上するたくさんの鮭を見ることができました。

明科町史(昭和六十年七月発行下巻)によれば、昭和初期、犀川では年間数百本の鮭が獲れた。一本の値段は一円から

一円二十銭、男性の日当が五十銭のころのことである。との記述があります。

しかし昭和十七年、魚道のない信州新町ダム(東京電力水内発電所)が完成したことにより、こうした素晴らしい自然の恵みが消えてしまいました。当時「富国強兵」が国是の時代だったとはいえ、本当に残念と思うばかりです。今からでも同ダムや、生坂ダムに魚道の付帯工事をやって昔の自然を少しでも取り戻せたらと思うこのごろです。

その2「奇妙な漁法」

三尺流れれば、水も飲めると言われた犀川の清流も、戦争が激しくなり、伐採する木材が多くなると山が荒れ、雨が降るとすぐに増水し、黄土色に濁るようになってしまいました。しかし私ら子供達には、濁る理由などはとにかく「待つてました」とばかりに裸足となり、川の瀬に膝くらいの深さまで入り、川下に向かって立つのです。するとどういふ訳か、脚の下に魚がもぐり込んでくるのです。しかも両足に同時に入ってくることもありました。それを両手を使って掴みどりするので、結構沢山獲つたものでした。しかし何故足の下に入ってくるのか、濁り水との関係はどうか、その理由は分かりませんでした。最近になって、偶然に手にした。

「仁淀川漁師秘伝」

(株)小学館発行 価千三百円十税

の本に「仁淀川(注、高知県 著者)」には、「面白い漁法がある」との見出しで、内容は、夜間、膝くらいの深さまで瀬に入り、下流に向かって両足をわずかに開いて立ち、足と足の間に両手をお椀状にして、水の中に入れてみると、アユが椀状

にした手掌の中に入ってくる、それを静かにはさみ獲りする、といったその姿勢・方法を図解してありました。四国の仁淀川では夜間、犀川では濁流、一方では手掌、当方では足の下、水深は膝くらい、川下に向かって立つの共通点……はて……漁師の話によると、「アユは流れの緩い場所のゆるい水流で休もうとして、自ら入ってくるのです」と言うのです。玄人の漁師の長い経験からの説明です。犀川のアカオも流れのゆるい足(岩)の下に入り、休もうとしたのかもしれない。「足の下漁法」など滅多に思い出すことのない、遠い昔の小さな疑問ではありましたが、今ごろになって正解らしい文章を読んで何やらほつとした気分になりました。



アユの手づかみ。夜、膝くらいの水深の瀬で両手を開いて構えていると、より緩い水流の場所です。たいへん原始的だが画期的なアイデア漁法だ。



去る六月六日に開催した

「関東支部親睦会」の出欠返信ハガキで
寄せられた関東支部会員のみなさんの

メッセージを通じて近況をご紹介します。

※お名前(敬称略)……(在住 生坂中卒年 出身地区)

赤羽久子 ……………(練馬区在住)

赤羽與二郎氏(二三・三 小立野)ご全室
ふるさと生坂会のみなさまへ

はじめまして、私、赤羽與二郎の家内
でございます。

ふるさと生坂会のお集まりの際にはい
つもお声をかけていただきましてあり
がとうございました。あまり参加でき
ずに大変失礼いたしましたお詫び申し
上げます。

主人ですが、平成十七年に脳腫瘍を發
病し、入退院を繰り返し返してきました。
そんな中、長い年月とも思えるのです
が、とても穏やかに過ごすことができ
ていましたのに、二十六年二月に他界
いたしました。

最後となりまして恐縮でございます
が、主人が生前お受けいたしましたご
厚意に深く感謝いたしながら皆さまの
ご健康とご多幸をお祈り申し上げます。
本当にありがとうございます。

荒井通夫 ……(牛久市在住 二八・三 下生野)

親睦会が盛大に開催されますよう祈念
申し上げます。

岩崎英志 ……………(相模原市在住 有志)

三十数年前に古民家を購入し炭をつく
つております。

岩下利夫 ……(大田区在住 二三・三 上生坂)

体も弱つてきましたが元気で頑張つて
います。

岩松 孝 ……(川崎市在住 三三・三 上生坂)

『叶わぬモノが浮世なら空蟬にて静か
なり』

宇田川豊子 ……(浦安市在住 二八・三 上生坂)

いつもありがとうございます。
先日千葉のバラ園に行つてきました。

数々のバラの花の美しさと香りを満喫
し、その中でコンサートを楽しんで
きました。健康で出かけられることに
感謝をし、老いても豊かな人生を送る
ことに努力をしております。

海川和代 ……(板橋区在住 二五・三 上生坂)

暑くなりまして最近屋内で静かにし
ています。

遠藤孝子 ……(新宿区在住 二九・三 下生野)

ご返事遅くなつてすみません。親睦会
出席します。

大澤可嗣 ……(柏市在住 二八・三 下生坂)

いつもふるさと生坂会のお便りをもら
いながらご無沙汰ばかりで失礼してお
ります。「あの世」へ行く前に一度は顔
を出したいと思つておりますが……。

勝家 修 ……(取手市在住 三三・三 草尾)

親睦会出席します。よろしく願ひし
ます。

菊池ゆり子 ……(新座市在住 二九・三 下生野)

都合がつかず、次回を楽しみにしてお
ります。

木下悦子 ……(西東京市在住 三一・三 下生野)

出席したかったのですが、他用があり
まして残念です。

久保道子 ……(板橋区在住 二二・三 入山)

役員の皆さま方いつもお世話になつて
おります。私も高齢になり足も悪いの
で欠席させていただきます。ふるさと
生坂会が盛況に開催されますようお祈
り申し上げます。

黒木文江 ……(北区在住 二三・三 小立野)

「生坂」と聞いただけで懐かしい。皆
さまにお会いする日を楽しみにしてい
ます。

越田弘子 ……(新宿区在住 二〇・三 大日向)

毎々ご案内ありがとうございます。新
宿区左門町から隣の愛住町の娘のここ
ろへ移りました。公園もありとても静
かで四季を感じることができます。夕
方になるとハクビシンの電線綱渡りが
見られます。昨秋も豊科の妹から柿を
いただきましたが一夜で食べられてし
まいがっかりですが、でも何か懐かし
い想いがこみ上げてきました。

坂爪捷兵 ……(川崎市在住 三三・三 上生坂)

当日、金沢に出張のため出席できま
せん。元気で今でも現役で全国を飛び
回っております。皆さまによりよくお
伝えください。

清水千里 ……………(北区在住 二三・三 小舟)

ご無沙汰いたしております。出席しま
すのでよろしく願ひします。

瀬端和一 ……………(中野区在住 二七・三 古坂)

この季節、犀川の流れ、山清路の山並
み、ツツジの花などいろいろと思いだ
されます。私は古坂出身で広津中学に
通いました。

『汗かいて 古坂峰で ひと休み』

高野清幸 ……(江東区在住 二七・三 下生野)

生坂会のみなさんにお会いできるのを
楽しみにしております。

高野長英 ……(横浜市在住 二九・三 下生野)

ご無沙汰しております。毎回の欠席で
申し訳なく思っております。今回も弟
の三回忌法事のため欠席します。



瀧澤通夫 ……(多摩市在住 二五・三 小舟)
 ♪みどりを保全育成するボランティア活動に参加しております。昨年秋季には「永年表彰」などを受け元気にやっております。

竹内幸雄 ……(北区在住 下生野)
 皆みなさまにお会いすることを楽しみにしております。

寺島久公 ……(小田原市在住 二七・三 日岐)
 いつも連絡ありがとうございます。今回も静脈瘤の手術日にあたり欠席します。

寺田廣康 ……(文京区在住 二三・三 上生坂)
 帰省の際の散歩。その道すがらの家々を一軒一軒どなたの家だったかなと思いだしてみる。そんなときにまず「屋号」が先にわかり、それから当時の住人の方の名前がでてくる。当時は藁葺屋根の家がほとんどだった頃の記憶から、部落名と屋号で六十数年前の家を当てる。ちよつとした探検気分です。楽しくもあり、懐かしいひと時である。反面、お互いに年齢をとったねえと苦笑いする兄妹でした。

中村 誠 ……(川崎市在住 昭和六年生れ 小立野)
 案内をいただきながら欠席ばかりでごめんなさい。どうか皆さんご健康でご発展くださいますようお願い申し上げます。

縫島とみ子 ……(群馬県藤岡市在住 二七・三 上生坂)
 体調不十分にて申し訳ありませんが欠席させていただきます。みなさんによりしくお伝えください。

平林真人 ……(練馬区在住 二八・三 上生坂)
 申し訳ありません。欠席させていただきます。

平林久枝 ……(練馬区在住 二七・三 上生坂)
 残念ですが欠席します。当日、地域の人との交流会のためそちらを優先してしまいます。生坂中学の同級会には出席していますので生坂のことは同級生から情報をいただいております。ふるさと生坂会〴〵のますますの発展を祈っております。

平林次雄 ……(江戸川区在住 四〇・三 上生坂)
 いつもご案内ありがとうございます。協力できずに申し訳ございません。

藤澤孝次 ……(横浜市在住 三九・三 池沢)
 毎日、村長さんのフェイスブックにより村の情報を得ております。ふるさと会の会員拡大も年齢に関係のないフェイスブックによる親睦の輪をひろげ、交流のメッセージを交歓しましょう。

藤澤良次 ……(さいたま市在住 三二・三 池沢)
 生坂会の皆さま、今年があつという間に数カ月が過ぎてしまいました。元気であれば出席したいと思ひ返事が延びてしまい今日に至ってしまいました。今年も先日まで二カ月ほど病院ホテルの生活でした。昨年は、赤とんぼ祭り、レジャー用品の販売会、大町での同級会、法事などで生坂村には何度もまいりました。体調の関係で何もできませんが、山のにぎわいにはなったのではと思っております。今年こそ、今年こそと思ひながら皆さまの足を引っ張ってしまつて申し訳ありません。ご盛会を祈ります。

藤原明彦 ……(流山市在住 四七・三 上生坂)
 いつもありがとうございます。当日はすでにお客様との先約が入っているため欠席させていただきます。皆様方のご健勝をお祈り申し上げます。

藤原輝雄 ……(多摩市在住 三四・三 上生坂)
 都合で出席できませんが皆さまによりしくお伝えください。

矢口嘉通 ……(横浜市在住 三六・三 東広津)
 『岩つづじ 清き流れの 山清路』

山崎健吾 ……(所沢市在住 二八・三 小舟)
 いつもいろいろご苦労様です。今リハピリ中です。

山本茂雄 ……(豊島区在住 三三・三 草尾)
 生坂中学に通っている甥っ子の同級生は男子が七名、女子が八名だけだそうです。少子高齢化で今後生坂村はどうなるだろうか。：。地場産業も少なく、村を出て働く人が多い。ふるさと生坂会も今後どのように創成していくか。同級会でさえなかなか出席者が少なく、高齢化が進む中で…。

山本俊一 ……(さいたま市在住 三三・三 大日向)
 『咲くもよし 散るもまたよし 桜花』
 桜の季節も去り新緑の美しい季節となりました。所用のため親睦会は欠席します。

山本美津子 ……(足立区在住 三七・三 小舟)
 ご連絡ありがとうございます。これまで

で二度ほどふるさと会に出席させていただきましたが先輩ばかりで…。これを機会にと同級生を誘い七名で出席させていただきます。

山本善彰 ……(調布市在住 三五・三 上生坂)
 先約があるため欠席をお許しく下さい。ご盛会を祈念申し上げます。

吉沢希明 ……(江戸川区 二七・三 入山)
 昨年、二十七年卒業の同級会(子丑会)を行い十五名が参加しました。その中に現役で活動中の方が二名おりました。一人は生坂名物「おやき」の販売、もう一人は植木職人として今でも得意先から指名されているそうです。長寿県「信州」の面目躍如である。





久保田畔平……(横浜市青葉区三三三 小立野)
 近況報告…今でも現役で仕事し、年4回帰省します。5月の連休7泊8日で四国遍路徳島の一番霊山寺から愛媛の45岩屋寺迄参拝してきました。
 来年は残り43寺を参拝するつもりであります。今年の26回目の同級会(やまなみ)に17名参加。来年も4月の第2週の土曜日(やまなみ)開催します。

平成26年度の収支報告

収入の部	
前期(第6期)繰越金	105,109
平成26年度年会費(69名×@3000円)	207,000
寄付金(寄付金、ご祝儀等)	10,000
雑収入(親睦会残金繰入、利子)	8,028
合計	330,137

支出の部	
事務・事務用品費(封筒・資料印刷・事務用品代)	18,344
通信費(切手・はがき代、宅配料)	55,550
会議・会場費(会場使用料、会議お茶代)	20,154
会報発行費(会報製作・発送費)	74,147
雑費(謝礼・ご祝儀、振込手数料等)	22,626
H27年度への繰越金	139,316
合計	330,137

方6名を含めて22名のみなさんにお集まりいただき、ふるさとの話題、昔話に花を咲かせ、和気あいあい楽しいひと時を過ごしました。



去る6月6日に平成二十七年年度の「幹事会」を開催いたしました。
 当日は、ふるさと会の現況や平成二十六年年度の活動結果を再確認するとともに、平成二十七年年度の活動について忌憚のない意見交換をおこないました。
 なお幹事会終了後、同会場において「関東支部親睦会」を開催いたしました。お陰さまで今回は初めて参加される

平成二十七年年度
幹事会・関東支部親睦会の開催

本部事務局からの
 お知らせ

平成二十七年年度「年会費」納入のお願い
 同封の振込用紙にて、平成二十七年年度(平成二十七年四月一日～二十八年三月三十一日)の年会費三,〇〇〇円(一家族)を七月末までに納入いただきますようご協力をお願いいたします。

広報「いくさか」のお届け
 生坂村のご厚意で広報「いくさか」六月号を同送します。どうぞ直近のふるさとの情報に触れてください。

「故郷直送便」のご案内
 生坂村の新鮮な野菜をお届けする「故郷直送便」をご案内します。ご希望の方は内容をご確認のうえ、同封のご案内書にてお申し込みください。

以上

お問合せ・ご注文



心がかようお漬物
藤澤醸造株式会社
 長野県東筑摩郡生坂村4655番地
 ☎0263-69-2030
 FAX: 0263-69-3353
 http://www.fujijo.co.jp
 E-mail: info@fujijo.co.jp



レストハウス わらく
 住所: 日岐9300
 電話: 0263-69-2169



かあさん家 (財)生坂村農業公社
 住所: 上生坂
 電話: 0263-69-2712



勝家おやき店
 住所: 草尾13190
 電話: 0263-69-3105



赤羽おやき店
 住所: 小立野734
 電話: 0263-69-2243



元気だせ家
 住所: 下生野3077
 電話: 0263-69-3539

勝家おやき店 国道店



民宿・おやきの家 かいざわ
 住所: 草尾13197
 電話: 0263-69-3138

ふるさと宅急便

